

令和7年度厚木市総合教育会議第2回会議 会議録

1 日 時 令和7年10月23日（木）午後2時から4時まで

2 場 所 厚木市役所本庁舎3階 特別会議室

3 出席者 山口市長、佐後教育長、杉山教育長職務代理者、山本委員、宮崎委員

4 事務局 企画部長、企画部次長、企画政策課長、総合計画担当課長、産業文化スポーツ部長、産業文化スポーツ部次長、スポーツ魅力創造課長、教育部長、教育指導担当部長、教育総務課長、教育指導課長

5 傍聴人 なし

山口市長挨拶

6 案 件

- (1) 厚木市教育大綱について
- (2) 第3次厚木市スポーツ推進計画の策定について

7 報告事項

- (1) 第11次厚木市総合計画について
- (2) 市の鳥制定について

8 会議資料 別紙のとおり

9 会議概要（議事進行：山口市長）

6 案 件

- (1) 厚木市教育大綱について

厚木市教育大綱について、企画政策課から資料1に基づき説明

【企画政策課長】

（資料2のとおり説明）

【杉山委員】

資料1の2ページにある計画構成図の「未来を創る人づくり」という基本理念は、年齢にかかわらず全ての人が対象になると理解した。

近年、外国人に関する政策が問題になっている認識があるが、外国人を問題視する風潮は、いじめへの発展など、悪い方向へ向かってしまうのではないかと懸念している。

市として、人権教育をどのように進めていく考えか、具体的な施策を伺いたい。

【教育総務課長】

「日本人ファースト」という言葉が流行している。現時点では、学校等での問題の報告はない。いじめなどの問題に発展しないよう継続して取組を進めていく。

【総合計画担当課長】

人権に関しては、市民協働推進課が人権教育推進事業を実施している。具体的な事業としては、あつぎヒューマンライツフェスタの開催や、啓発ポスター及び冊子の配布等を行っている。令和6年度の人権教育推進事業への参加者数の実績は、3,929人と聞いている。

【杉山委員】

昔は、リカレント教育が話題であったが、現在、市民のスキルアップを推進するにあたり、市としてどのようなことを検討しているか。

【教育部長】

市民のスキルアップ等については、生涯学習推進課が所管しており、リスクリングやリカレント教育などは、大学と連携して学び直しをしていただくことを検討している。

【杉山委員】

未来図書館の整備や具体な内容について伺いたい。

【教育総務課長】

これまで「(仮称) 未来館」及び「図書館」が備わった複合施設として進めていたが、「厚木市未来・図書館」という1つの施設として機能を入れ込んだ形となった。厚木市子ども科学館の後継を担う「未来館」の部分は、「ワンダー」をテーマに、実験教室などを展開しながら、自分で興味関心を探求することを図書館がサポートする形で運用を進めていくと聞いている。具体的な詳細は、開館後に決めていく。

【山本委員】

参考資料1、14ページに記載の厚木市教育大綱の基本理念について、「創る」と「支える」があるのではないか。基本方針1及び2は、「未来を創る」、つまりこどもに關すること、そして基本方針3及び4は、「未来を支える人づくり」、つまり大人に

向けてのメッセージと受け止められる。

その中で、基本方針2の施策5「教職員の指導力と働く環境の向上」については、指導力と働く環境は分けて記載した方がよいのではないか。

【教育総務課長】

教職員に係る項目について、指導力と働く環境という2点は異なる内容ではあるが、いずれも教職員に関することであるという点で共通しており、一体的に検討するため併せて記載をした。

【教育部長】

教職員に関連することは、施策の中で1つにまとめて記載している。

【企画政策課長】

第2次厚木市教育振興基本計画の基本理念「未来を担う人づくり」について、教職員をされている方にも委員をしていただいている審議会の中で検討したところ、これまでの「担う」は、大人が子どもに対して任せせるような印象を受けるため、大人も対象として「創る」ことを全世代でやっていくという意味を込めるのが良いのではないか、という意見があり、今回採用した。大人がこどもをサポートすることも「未来を創る」の一環と認識している。

【山本委員】

基本方針3の施策2「家庭・地域・学校の連携・協働の推進」に記載の「地域全体で教育体制に関わる体制を築く」について、具体的な施策があれば伺いたい。

【教育総務課長】

地域における教育体制については、学校と地域が一体となり、社会全体でこどもたちを育てていく方針である。

【山本委員】

説明を受けて理解が深まった。厚木市教育大綱のポスターについては、大人が読んでわかりやすいものと、こどもが読んでわかりやすいものという2種類を作っていただきたいたい。

【企画政策課】

いただいた御意見を参考に検討する。

配布先については、令和2年度の策定時は、こどもが使う施設及び大人が使う施設、全31ヶ所の公共施設に配布している。過去の配布先を参考にしながら、改定後についてもTPOに応じて検討していく。

【宮崎委員】

厚木市教育大綱のポスターに関しては、コンパクトにまとめていただきたい。

【企画政策課長】

御意見を参考に、検討していく。

【宮崎委員】

資料1の位置付けの図に記載されている枠外のこども大綱（こども家庭庁）は、これに紐づいている個別計画よりも重要なのではないか。位置付けを再検討されはどうか。

【教育部長】

個別計画の策定に当たっては、こども大綱の内容を勘案しているものであるが、位置付についてはいただいた御意見を参考に検討する。

【宮崎委員】

パブリックコメントに関しては、AIやインターネットも活用しながら、多くの市民から意見を集めていただきたい。

【企画政策課長】

パブリックコメントについては、9月に実施した総合計画のパブリックコメントではLINEを活用する等、新しいやり方を取り入れている。本計画についても様々な手法で意見を聴取していく。

【宮崎委員】

基本方針2の施策2「就学のための援助」では、経済的な支援について2点記載されているが、経済面だけでなく、こどもと保護者を直接援助する点についても記載した方がよいのではないか。

【教育部長】

いただいた御意見を参考に検討する。

【教育長】

教育大綱と第3次教育振興基本計画を一体的にしたことには大きな意味がある。昨年、社会教育部が市長部局に移行した点について不安の声をいただくこともあったが、新しい計画を見たら安心いただけるのではないか。

「教育」というと、どうしてもこどものことと思いがちだが、本来は年齢問わず関

係すること。広く施設等で周知していくことは、市民の皆さんにとっての誇りにもつながる。こどものためのものではなく、全ての皆さんに係ることである点に配慮して周知いただきたい。

【山口市長】

今後においても、皆様の意見を反映させながら、策定を進めていく。

(2) 第3次厚木市スポーツ推進計画の策定について

第3次厚木市スポーツ推進計画の策定について、資料2に基づきスポーツ魅力創造課長から説明。

【杉山委員】

資料2：4～5ページ「5 計画策定に当たって考慮すべき視点」

(2) 及び(7)に「未来を担う」と記載があるが、厚木市教育大綱の基本理念は「未来を創る」の予定。整合を図るのか。

【スポーツ魅力創造課長】

文言の整合性については、検討する。

【杉山委員】

資料2：5ページ「5 計画策定に当たって考慮すべき視点」

「(5) 誰もが利用しやすいスポーツ施設の提供」の中で、施設の老朽化への対応について記載しているが、具体的に検討内容を伺いたい。

【スポーツ魅力創造課長】

施設の改修については、市内の施設の多くが老朽化している中で、安全性を第一に優先順位をつけて順次取り組んでいくこととしている。

【杉山委員】

資料2：5ページ「5 計画策定に当たって考慮すべき視点」

「(6) トップアスリートのプレー等を感じられる環境づくり」について、検討内容を伺いたい。

【スポーツ魅力創造課長】

本庁舎等敷地跡地に検討されている多目的アリーナの活用を検討している。

【杉山委員】

資料2：5ページ「5 計画策定に当たって考慮すべき視点」

「（7）未来を担うスポーツ人材の育成」については、学校教育における部活動の地域移行も関係してくることだと思う。「スポーツ活動を支える指導者やボランティア等」の中に、地域のスポーツ団体なども含まれると推測しているが、どのような支援を検討しているか。

【スポーツ魅力創造課長】

「スポーツ活動を支える指導者やボランティア等」については、クラブチームやボランティアの方なども想定している。例えば、スポーツ協会に登録されているボランティアの方や、クラーク記念国際高等学校の生徒の方などにも協力いただきながら、部活動指導をしていくことを検討している。

【杉山委員】

トップアスリートの育成に関して、補助金などはあるか。

【スポーツ魅力創造課長】

育成に関する補助金がある。

スポーツ協会に補助金を交付し、スポーツアカデミー事業を平成26年度から実施している。

【山本委員】

資料2：1ページ「1 計画策定の趣旨」

「スポーツの聖地」という言葉を定義付けたことについて、言葉を独り歩きさせないために大変よいと思う。

資料2：4ページ「5 計画策定に当たって考慮すべき視点」

「（1）誰もがスポーツを楽しめるまちの実現」は、本計画の1番最初に示すべきものだと思う。スポーツの聖地の定義の中に入れるのはどうか。トップアスリートを身边に感じられることも重要だが、主役はあくまでも市民という目線を忘れずに検討いただきたい。

【宮崎委員】

総合計画審議会でも申したが、「スポーツ王国」という表現について、山口市長がおっしゃった「スポーツの聖地」に移行していくよう、文言の整理をし1つに絞っていくのはどうか。

【総合計画担当課長】

「スポーツ王国」という表現は、第10次厚木市総合計画に記載している個別計画一覧の中で、第2次厚木市スポーツ推進計画の説明文で使われているが、第11次総合計

画の策定に当たっては、文言を整理する。

【宮崎委員】

スポーツボランティアさんがいらっしゃるが、ボランティア及び指導者ともに人数が足りない。成り手について、個別計画の中でもPRできないか。例えば大学生や民間企業からも募るなどは可能か。

【スポーツ魅力創造課長】

ボランティアや指導者の募集については、いただいた御意見を参考に検討する。

【山本委員】

ボランティアの件、中学校の部活に関することについて。^{ユニバス}UNIVASという大学の中のスポーツ協会があるが、文科省が発信した「大学生ボランティアの推進」の件について、大学学長会議の中で出た意見を紹介させていただく。大学生は勉強しに来ているのであって、文科省やスポーツ省のアルバイトをしに来ているわけではないと、反発の意見があったと聞き及んでいる。そのような情報も参考にしながら、厚木ならではのやり方を模索していただきたい。

7 報告事項

(1) 第11次厚木市総合計画について

第11次厚木市総合計画について、総合計画担当課長から資料3に基づき説明
意見なし

(2) 市の鳥制定について

市の鳥制定について、企画政策課長から資料4に基づき説明
意見なし

【山口市長】

それでは、案件が全て終了したため、進行を事務局に返す。

【事務局】

これをもって第2回会議を終了する。

以上